**平成 28 年度　記者懇談会（第 7 回）の記録**

**日　時　平成 28 年 11 月 28 日（月）午後 3 時 30 分**
**場　所　水道庁舎 4 階 会議室**
**記者数　9 人**
**同席者　阿部副市長、天野副市長、総務部長、戸沼観光物産振興課長**
**次　第　1　台湾（台北市）における観光プロモーションの報告について**
**2　その他について**

**1　台湾（台北市）における観光プロモーションの報告について**

**説明内容**

**（市長）**

それでは、台湾の台北市で行いました観光プロモーションについてご報告をさせていただきたいと思います。

１１月２０日から２３日、３泊４日の日程で、私のほか、観光協会の奈良会長、メープルロッジの飯田支配人などとともに、岩見沢市の観光プロモーションを実施してまいりました。

訪問先は、お手元の資料にありますように、台湾の大手旅行会社のライオントラベルや東南旅行社などの旅行会社６社、旅行番組や旅行雑誌に力を入れている三立テレビ、そのほか観光関係団体２団体、合わせて９か所を訪問いたしまして、岩見沢市のＰＲ動画や観光パンフレットなどを用いまして、岩見沢市のプロモーション、魅力を最大限に伝えられるように行ってまいりました。

台湾からの来道者が５４万人を超える中で、各旅行会社におかれましては、北海道における新たな観光資源を求めているような状況でございまして、岩見沢市のメープルロッジやバラ園、さらにはワイナリーなどの観光施設のほか、当市で体験できる野菜や果樹などの収穫体験、雪遊びなどに対して非常に高い関心を示していただきました。あらためて台湾からの誘客の可能性を感じさせるような具体的なお話もいただいたところでもございます。

これから実際に、インバウンドへ結びつけるには、整理しなければならない課題もたくさんございますけれども、観光協会や岩見沢市とコンサルティング契約を結んでいるＪＴＢ北海道とも十分に連携しながら課題を整理し、具体的な実績につなげていきたいというふうに考えているところでございます。　以上でございます。

**質疑応答**

**（北海道新聞）**

インバウンドに結びつけるための課題とは具体的にどのあたりなのか教えてください。

**（市長）**

先方からは団体旅行をあちらから出す際の宿泊のキャパですとか、さらには条件面の提示というのはこれからの課題で、例えば料金設定ですとか、ツアーの中のどのような行程の中で入るとか、あるいは季節の中で果樹や等々含めた農業体験というのは非常に興味を示していただいたんですけれども、どの時期に行ったらいいのかとか、サクランボだったら何月とか、リンゴだったら秋とか、そういうようなことで非常に多くの関心を持って色々なことを聞かれました。全体をとおして言えることですけれども、次の展開に向かうスタートには立てたのかなというような率直な感想を持って帰ってまいりました。観光ですからやはりビジネスですので、お互いにビジネスとして十分発展するような可能性があるのかなというようなところがお互いが認識できたのではないかなというふうに思っています。

**（読売新聞）**

市長のお話の中で改めて誘客の可能性を感じさせるような具体的なお話とありましたが、具体的にはどのようなことでしょうか。

**（市長）**

先程のお答えと重複するかもしれませんが、先方の団体旅行の場合であれば 30 名から 40 名がキャパシティなんですけれども、その方たちを泊まる際にどういったホテル、宿泊施設が利用できるのかとか、そこにはどういった設備があるのかとか、あとは体験プログラムの種類でどういったことがあるのか、季節的な問題と台湾の学校の夏休みが 7 月から 8 月と確か 2 か月間あるのですけれども、その間におけるグランピング

も含めた可能性はどうなのかとか、そのことも承りました。そことこれから観光協会やメープルロッジを通して直接先方と協議に入っていくわけですけれども、いち早く具体的な協議に入ってもらうよう、担当の方でも一生懸命取り組んでいるところでございます。

**（ＮＨＫ）**

宿泊などで台湾からこうしたほうがいいとか提言みたいなものはございましたか。

**（市長）**

具体的な提言はこれからということで、全て協議を終えてまいりました。先方の希望、望むものもより詳細なものについてもこれからの協議ということで、今岩見沢市としては体験プログラムの中身の概要を提示してきたところなので、より詳細を詰めた中身で、特に団体旅行だけではないということで、フィットと言いますか個人旅行の面でも非常に関心を持っていただいた。それから岩見沢市はロケーション的に新千歳空港と札幌市と岩見沢市はちょうど等距離になるんですけれども、岩見沢市が旭川空港とか富良野に行く際、あるいは道東方面に行く際には通過地点になるので、体験するということにもなりますし、さらに宿泊ということを加えてどのような商品をご提示できるのかというふうなご指摘もいただきました。

## 2　その他について（記者からの質問）

**質疑応答**

**（毎日新聞）**

先日ＪＲ北海道の社長からバス転換ですとか、維持管理が困難な路線があって、その中に室蘭線があったわけですけれども、ＪＲとしては協議会を作って沿線自治体で話をして欲しいと要望があったと聞いているのですけれども、それに対して岩見沢市としてはどういう姿勢でのぞまれるのかお聞かせください。

**（市長）**

ちょうど私が東京へ出張中に来られまして、阿部副市長が応対したわけですけれども、方向性の話を承ったわけで、より具体的な要請等を受けている段階ではないんですね。今後の協議の中身ということになってくるんでしょうけど。室蘭線の場合は鉄路の距離が長いという課題もありますし、上下分離方式というお話もあったようですけれども、その費用の一部というのがどの程度を指すのか、それが持続可能なものになるのかどうなのか、色々な課題があると思いますし、道内の自治体は概ねやはり国、道の関与といいますか、鉄道の管理の在り方というのも含めて議論すべきではないかとの意見も逆に中央の方でも出ているような状況ですので、具体的にはこれからになると思います。

**（毎日新聞）**

これからというのはわかるんですけれども、どうするのかということを南空知のリーダーの岩見沢市として栗山とか由仁とかそういったところと、今後どういうふうに望んでいくのかという協議を積極的にやっていく方が岩見沢のためになるのではないかと思うんですけれども、そのへんはどうですか。

**（市長）**

関係自治体との協議はこれからということになろうかと思います。それぞれの自治体でも具体的な提案を受けているわけではないので、基本的にどういうスタンスで対応していくのかというようなところから入るのかなと思っています。

**（毎日新聞）**

国の積極的な関わりというのは大切になってくるのかと思いますが。

**（市長）**

私自身の認識なんですけれども、国としては民営化に際するＪＲ北海道への支援とか、安全の確保を含めた経営問題に対する支援とか、そういったことで一定の支援をしたという認識なのかなという気もします。これだけ広大な面積の北海道の中で鉄路の担う役割をどういうふうに位置付けていくかということだと思います。例えば道路の場合は国がなおしたり道がなおしたり自治体がなおすんですよ。そこを使って輸送を含めて交通事業が産まれるわけですけれども、鉄路は完全に鉄道だけというような議論なんですけれども。果たしてそれが今後とも未来永劫続くのかどうなのか、だからと言って自治体がその負担をするというような安易な発想にはならないのではないかというような気がします。

ＪＲから実際に詳細に説明を受けたわけではないので、また説明が足りているとも認識していませんので。

**（読売新聞）**

12 月上旬にも他の自治体にもＪＲが訪問するというように聞いているんですけれども、こちらはいつくらいに来られるかというのは。

**（市長）**

そのご連絡はまだ聞いておりません。

**（毎日新聞）**

ＪＲもそうなんですけれども、市内のバス路線もかなり見直しがされていると思うんですけれども、その中で地域交通の在り方というのは今まででしたら鉄道だったらＪＲに任せればいい、バスだったら中央バスに任せればいいというふうになっていたかもしれませんけれども、自治体としてこうあるべきだということをアピールしていく必要があるのではないかと思いますが。

**（市長）**

日本全国どこもそうだと思いますけれども、バス事業者に対しては自治体で補てんしているんです。補てんをしない限りバス路線が維持できないという状況なので実は補てんをしているんです。ルール分に伴う都市間輸送の時の補てんのルールはありますけれども、それ以外の市内路線で維持が厳しいところは補てんをしているんです。

**（毎日新聞）**

補てんをしている現状でも路線を維持することが厳しい状況なのですね。

**（市長）**

ですからそのルールと同じようなことを鉄路に当てはめた場合については、維持自体が持続可能な制度として成り立つのかというそもそも論ですね。

路線毎の協議会ということをＪＲさんではご提案なさってますけれども、果たしてそういうレベルで済むのかどうなのか。北海道全体の議論も必要なのではないのか。北海道の方では全体の協議会を立ち上げたというふうにお聞きしておりますけれども。まだそれが始まったばかりというような状況ですし、ＪＲの経営問題については一定程度理解しているつもりなんですよ。単純にはいかないからそれだけのことを判断するような状況でもないというか、市民生活と住民生活と貨物輸送を含めた物流で具体的に室蘭線の場合はどういうやり方がいいのかというのは、具体的なお話を聞いてみなければ判断つかないというのも実情だなというのが正直なところです。基本的にＪＲさんは室蘭線は単独では無理だけれども鉄路は維持をしたいと、札沼線等々とは違うんですよね。単独では維持することが困難な線区という位置づけなんだろうというふうに思っていますけれども。その時にどういうロケーションというか、どういうふうな鉄路維持のためのことがあるのか。全般では便数を減らすということもあるでしょうし、駅をさらに廃止をするということもあるでしょうし、いろんなことを組み合わせていって、果たしてそれがどういうことができるのかということかな思います。現実問題として便数を減らすといった議論で、最終的に次の展開として室蘭線を無くすといったことを前提とした議論ではないんですかということをその時にお聞きをしたんですよ。その時に室蘭線の廃止ということは考えてはおりませんという返事だったんですけど。ただ、市内のバスもそうですけども、乗る方が減ってくると民間事業でやっている以上赤字路線のままでは維持できないので、そこをどうするかということなんですよね。ですからその乗客を増やすという取り組みもちろん必要ですし、同じ沿線の自治体といってもそれぞれ考え方が違うということもあるでしょうし。

**（北海道新聞）**

現段階で協議会設置ということはＪＲ側で音頭をとるか、自治体側で音頭をとるしかないと思うんですが、松野市長としてはどうお考えですか。

**（市長）**

ＪＲさんから次のステップのお話が来てからのことになるんだろうなというふうに思っています。いろんな機会があるでしょうから、関係自治体とは意見交換をする機会は当然のことながらあると思いますけども。それがオフィシャルな形で協議会の設立とは違うというふうに思っております。

**（プレス空知）**

先程公共交通の在り方云々という中で岩見沢市として公共交通網の在り方を具体的にどうするのかということを進めていると思うんですけれども、計画の中ではコミュニティの拠点として栗沢の駅からバス系統というのもあったかなと思うんですよね。今回のこの部分が出てきたことでのそこの要素というのもある程度加味しながら計画を変更というか、さらに細かい想定をしていかないとこの先も手戻りしながら進めていくことは難しいと思うんですけれども、今のうちにある程度やっていくとなれば想

定していた本年度中に基本計画の具体的な部分を立てるのが時間的に足りなくなってくるのではないのかなと思うんですけれどもその辺の認識はどうですか。

**（市長）**

公共交通のバス路線に関しては、来年の 10 月を目途に協議の詰めの作業を行っているところです。そのような基本的な考え方は市内路線でも幹線と郊外部の拠点という考え方をとらざるを得ないんだろうと。どの地域に住まわれている方でも、どこへ行くときにもバス 1 本でというのはなかなか難しい話だと思うんです。そういった要素も加味しながら色々なデマンド交通と言いますか乗り合いタクシーといいますかね、いろんな交通手段を組み合わせて、幹線と支線というような言い方になるのかもしれませんが、それをバランス良く配置するということになるんだろうなというふうに思っています。

**（プレス空知）**

鉄路があるないにかかわらず、支所があるところから栗沢が拠点で考えていくということになりますか。

**（市長）**

支所のあるところを郊外部の拠点として支線という交通体系をつくるという考え方ももちろんあるでしょうし、岩見沢は面積は広がったんですけれども、中心部から北村まで 8 キロあるんですよね。8 キロということは、郊外部の拠点として整理するのがいいのか、ダイレクトに中心市街地の方に来れるような手段を設けた方がいいのかというのはまだまだ議論がいる。ただこれの発生する赤字を抑えて利便性を向上して、乗客数を増やして、それでもなおかつ足りない分についてはどう補てんをしていくのかという考え方になるので、お金に糸目をつけなければいろんなバス路線の作り方があるんでしょうけれども。

**（プレス空知）**

今の部分でいくと、公共交通網の計画を一部栗沢地域の部分に関しては若干見直し、ヴァージョン変更も考えなければならないということですか。

**（市長）**

全体の見直しをやっているので。栗沢のかなり離れたところから幹線の拠点のところまで来て、それから幹線に乗り換えていくというやり方がいいのか、距離的にそんなに変わんないのであれば、ダイレクトに中心部の方に行く交通手段を考えた方がいいのか、そういったことも議論ですよねということです。

バスも鉄道もそうなんですけれども、幹線の末端からの支線といった考え方で整理していかざるを得ないのかなという認識はあるんですよね。

**（北海道新聞）**

先日発表のありましたアスベストの疑いのある公共施設の調査の進捗状況を教えてください。

**（市長）**

報告受けているのが、11 月 24 日に空気環境調査と建材含有調査の入札が終了しまして、調査業者が決まったと。今調査に向けて協議を進めていると。できるだけ早く調

査に着手をして対策をとっていきたいということになろうかと思います。調査する業界が混み合っているということですが、その中でもできるだけ早くということで要望はしているということですけれども。数等々については以前にお知らせしたとおりかと思います。

**（北海道新聞）**

煙突を封鎖するとおっしゃってた北村のトレーニングセンターと三館の作業はどうなっていますか。

**（市長）**

それもこれからになります。できるだけ速やかにということですね。

**（北海道新聞）**

市民への周知を今後検討したいというお話があったんですがそれはどのようにされていますか。

**（阿部副市長）**

市民の周知については、特に各施設に貼り紙をするというのではなくて、ホームページ上でお知らせはさせていただいております。

**（北海道新聞）**

今後ですけれども、調査結果が判明した場合はその都度発表されていくものなのでしょうか。

**（阿部副市長）**

業務の期間が今月の 25 日から来年の 1 月の末までの約 2 カ月間、これが業者さんが一度に調査をして一度に結果が出て来るのか、バラバラに出て来るのかそこはわからない状況なんです。岩見沢市としてはある程度バラバラということで一定程度わかるのであればというのはありますけれども、基本的にはある程度まとまって報告が来るのだろうと思います。業者さんの方も全道的、全国的に業者さんが手薄というか忙しいというのが推測されますので、1 月末ぎりぎり近くになるのではないかと、その分かった時点でどう手を打つかというのは早急にその時点で考えていかなければならないのかなと思っています。

**（市長）**

基本的には結果に応じてとる対応は 3 つですというふうに方針は固めています。これまで通り通常の使用をする。要観察をしながら使用していく。閉鎖もしくは改修というような措置をするという対応です。

**（プレス空知）**

市民に対する周知というところで、ホームページで周知していますということなんですけれども、パソコン、ホームページでアクセスできない人がもしいるとすれば、その人がそこを利用しているということを考えて、積極的な周知という部分で、これで足りるという判断をされているのかどうかというところを教えていただきたい。

**（阿部副市長）**

私の方ではホームページでお知らせして、報道機関さんも報道していただいているということがありますので。ただ各施設とも絶対にアスベストがあるかないかと問わ

れれば、正直ここはわからないことがたくさんあります。わからないのにどうもありそうですとなんとなく不安を煽るような気もしますし、そのことも含めて調査結果がわからないと何とも言えないのかなと。そういう意味では今の時点ではホームページだけでお許しをいただくというか。これである程度あるということがわかればですね、これはまた別の対応をしなければならないだろうと。今の時点ではあるかないかも含めた調査ということになりますし、仮にあったとして、それが空気中に出ているのか、部屋の中にあるのかないのかということがきちっと分かった上でお知らせする方が誤解を与えないというか、そういう思いはしております。

**（市長）**

ある程度の速報値が調査に入れば一定の期間で出て来るというのは見込めるんですけれども、詳細な結果というのは一定の時間がかかって初めて確定されるので、そういった状況も踏まえて、施設毎の状況もあるでしょうし。

（注）記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。（作成：岩見沢市秘書課広報係）